



中村俊定文庫  
文庫 18  
150



序

あはれ翁の遺流に俳諧の真行  
草の心をわれ脱すといふ冬世情を  
かきうとてこれあるまじき真とはなまじ  
あはれ翁の系のみこはれりかよのこ  
の世情とけり草の北の情の引よけ  
るさといふことこの木のつれさ  
ち減みかきかろくの人世情を  
あはれ翁の真をかくはりまあひ  
放埒の名あるは遠く安まよふもの人な  
まじき世情一編振るひしりてこれ  
れ一はうたれこれころに春一はさ  
つこころのあはれをばりてしりて  
はまよふまはるるの處をすてり

の格とよめるはりしとて、格は、  
ふの母は、格は、多とて、命、連、入、ハ  
格、ハ、の、ち、子、格、ハ、の、大、と、候、く、は、ま  
よ、い、さ、ら、し、と、の、は、り、し、と、も、ま、さ、し、  
う、つ、の、は、り、し、と、も、ま、さ、し、  
よ、の、ま、あ、そ、の、て、は、り、し、の、た、と、水  
あ、よ、涼、ま、り、門、よ、山、王、の、類、う、ち、て  
我、り、く、こ、足、の、格、と、は、り、し、と、も、ま、さ、し、  
骨、や、り、く、め、の、新、巨、筋、の、後、と、  
候、し、て、あ、い、に、こ、こ、こ、格、の、は、  
せ、と、は、り、し、と、も、ま、さ、し、

東毛坊又秀

真體

谷んころ



源魁



足もむ格のよみか、り、  
ま、う、む、な、く、ち、ま、り、の、文、  
文、な、ち、く、し、と、格、出、し、  
世、所、な、ま、こ、れ、う、ま、ん、ち、  
桐、の、や、の、す、つ、く、も、う、ふ、格、の、  
ち、ま、の、名、を、う、こ、し、ま、て、  
を、提、て、地、に、ま、く、し、と、  
り、し、の、男、く、し、と、あ、い、  
何、も、も、き、り、い、ま、  
文、の、み、ま、く、し、と、

支考  
茅本  
里印  
小南  
杜草  
乙由  
汀芦  
毛兜  
蘭小

しのたのほをうらまへしけいひ  
馬てかてんのやうなと信  
茶と考てるは又と祖母のち  
不旦夜子孫るにふ一折  
後百と渾念の代に好む  
氷出つりりもとてして居  
草餅めしあしかきんよ上は  
白くも何しき概やま  
扇紙の折除おあうてお中と  
りりあこの意のれし賣と  
地違えりりりい金の目  
小茶はれありの枝よと  
及朱  
先  
考  
由  
印  
由  
草  
小  
朱

二  
まゆむしぬの麻はさしぬ  
雨と豆麻ととん入行使  
町亭礼心やそ一のちほと  
十夜さるるあぬの山茶也  
日の懸あささゆして川はうい  
細りかへく馬中折く  
麦はまのあの中より底出  
娘いとくんと玉はさし不  
禮なうとてりもまはるまあはせ  
地走とあしとらしと居  
あれい又なまのちとくも  
白木のよはる茶のや  
及朱  
先  
考  
由  
印  
由  
草  
小  
朱

方外の子を入の地い取  
寺ハ本れ川は瀧のまじり  
ふくむ少敷に梅のいろし  
金襴もくたれははこむん  
ふいふくまされて居ては  
今帆とある船をよこ  
うすうとまじりて日の  
末とくたきま竹まじり  
菓の香ま首ままじりて  
ふろの風ままのまじり  
やうに刺まは流るま流  
掃くたつめのまま居  
考 免 朱 小 兎 由 草 印 本 考

えりれハ雀の鳴てまかり  
けりハしあやこじんあ板橋  
大あま出ままのまじり  
けりままのまじり  
をくまのまじり  
皇均れりのまじり  
道ハどくまのまじり  
ふまのまじり  
娘のまのまじり  
凡のまのまじり  
人まのまじり  
考 免 朱 小 兎 由 草 印 本 考

川舟のやすす時ハ漕すそ  
 砥のめんらんくぬかりこ  
 地すうとも凡ハかろ紙と麦の目  
 眠てらんハ答ろあゆまのき  
 牛に糸ハ人ら此あゆまの唐のよ  
 知人あまこばまんてん指し  
 髪と簾ふけてちりいんうさぬの香  
 程をわさう灯のぬいり  
 松ハくれちとつる都さよ  
 位の人ろ来ぬあゆまのめん  
 けつてんハかろゆまのめん  
 鞠の十とらと休むかろゆ  
 印 甫 草 由 芦 莞 朱 小 児 由 草 印

ちまうとたされよ菟とこま金  
 乘のしそあくいられ一両  
 田の桐めうとあゆまのゆ  
 ねいそくしきとあゆまのゆ  
 くらまてんかまにあゆまのゆ  
 介則のちれれぬいあゆま  
 なるあゆまは二の丸この丸  
 ちまの首よ年あゆまの丸  
 ちまの二の丸とさゆまの丸  
 ちまの流るる銀言の水  
 ちまのよあゆまの丸とこま  
 ちまの丸とあゆまの丸  
 甫 印 草 由 芦 莞 朱 小 児 由 草 印

ぬ威多る糸もちりしも冠 草  
 田もあやこまうへんけしあ 由  
 とらけりもこのん中り後んい 芦  
 こそ人作ても油合ぬし 莞  
 酒いとも増威なるる白いん 小  
 こそくさいよさくあれはあつ 朱  
 しくまぬて其のよあつ美洋 荳  
 ふ糸のえ使ねて物なや 考  
 しの言と三りちし出らなすの々 本  
 度のはんやせしゆし兼 白  
 梅のよこれこころよわ沙ち地 甫  
 ぬ法しねなる沈のまのの 草

茶そしよぬはあつれ旅のこも 由  
 川ちあてすこふく東あし 芦  
 是のよいらも位者よ措の乳 朱  
 とくもつたんえん 一桶 小  
 のくよい出んこころあつのむ 莞  
 日ハこころと地あつこのぬ 物子

水鏡

らんきうさる

涼

松のよの及もぬるやねもま 支  
 屋対はすれよ出るけあうし 支  
 所あこれらも一形産のぬけし 支





ちのわ信のきこるさゆを  
きぬよふしあはし八兼おとこ  
筆一むら目とすたれ也  
ふゆしゆりゆやうにゆりて  
をゆまといふよてのむ  
さうきてさういよは早もゆりか  
ふらあやこよ川のゆりゆ  
のゆとてし林と雲う板かろ  
敷きさうやう凡のあんさ  
司心のいふよ垣もせん  
控るひさう八風さしゆ  
竹中のえはにうして衣氣の  
覽 甫 小 印 芦 本 考 菴 由 朱 羊 覽

茶けよ八夏の赤味ゆ  
あのかはははのきと飛のいて  
さうもさうはつよい女子や  
あかひさうさうは居りあし  
けさうさうさうのあは  
んしあまよひ城よられの月  
さあさうさうは綱よさう  
さうさうはゆもあひさ  
隣のあもさうよあも合  
一切をさうさうさうさ  
まはさうさうさうのねえ  
あひさうさうさうさうさ  
甫 覽 筆 朱 由 考 菴 本 芦 印 小 甫

かじしちちんかきし食の忠  
 やしよ者のあつされその河さ  
 ころたけくしと橋とんく在  
 ちちれもいり指表さうし箱  
 う終しいとまに泣きとあも  
 二ことほゆやま酒さうのさ  
 撞つてさう物欠てさるふ  
 灯のんえぬあふ念をゆさお  
 あまをいりゆさよる船既  
 をついでり花さういあかあさ  
 竹の子みおたれさあえや  
 店を中しんあまふ念の日  
 小 舟 児 草 朱 由 考 菴 本 芹 白 小

びせしまけハヤサシしい路  
 大更けけの板のたろまはちうて  
 年ういなさう娘さうてお  
 恋とすあいよまおめさうありん  
 襖さうせハさうと 蠟燭  
 ちんとハハなぬさういしりの  
 こさうしとさあさきほあき  
 ゆうのらんきまやして拍子扱  
 ほうさうしとさうさう  
 たらちまのそれさうやそ東ゆる  
 けーやの奥さうそのしと  
 あさうにぬさうさう持あさき  
 白 芦 木 丸 考 由 米 草 小 舟 印

紋  
乃の船  
さい  
何  
あの人  
才  
勢  
お  
あり

文  
舟  
い  
の  
れ  
さ  
い  
の  
は  
ま  
り  
さ  
の  
ま  
に  
い  
た  
り  
に  
あ  
ら  
い  
ま  
し  
よ  
の  
ち  
は  
の  
り  
さ  
の  
ま  
に  
い  
た  
り  
に  
あ  
ら  
い  
ま  
し  
よ

小  
本  
荒  
考  
中  
朱  
草  
兜  
南  
小  
印  
芦

執  
始  
少  
病  
一  
葉  
福  
中  
以  
あ  
あ  
あ  
あ

文  
舟  
い  
の  
れ  
さ  
い  
の  
は  
ま  
り  
さ  
の  
ま  
に  
い  
た  
り  
に  
あ  
ら  
い  
ま  
し  
よ  
の  
ち  
は  
の  
り  
さ  
の  
ま  
に  
い  
た  
り  
に  
あ  
ら  
い  
ま  
し  
よ

小  
本  
荒  
考  
中  
朱  
草  
兜  
南  
小  
印  
芦

入りのよとついとほくら

抱ま

草體

飛信いこる

海老

まいははつわう赤いさの尾

まのあま谷の山音

うらうら有つとんてこまてし

さん角すれハ森も河うれ

招ふ本に這あつれとこゆのき

いふし入るるとれ山本かる

物よ世伝とやわら世傳とも

そんち取痛らうりやあや

支 又 行 乙 芦 季 杜

あれくのちまひ鳥背戸のき

ゆあともまうゆいそあま

いふはあまにゆまうとくそ

こまのこまは餘ハはきも

しつと棒ハの子にゆき

ゆらゆらとまてこま

ころかひまうみんてからすれ

物とこらまとゆれりゆ

別友ハあまも〜んゆりゆ

天物も〜〜やの秋凡

ゆらゆらゆめいふのあつ川

まあつゆの夜ハふも旅人

水 葉 日 葉 考 朱 芦 由 本 芝 草 甫

七の時出てもよらうとていふと  
西と揚子橋炸しのかれ  
破れよとすきくはすくま  
いんちんちんちんちんちん  
ゆきゆきのあはらうと目くら  
まきといふ事とていふ  
くれ作のち陰のゆきといふ  
從廻あしうまといふと  
ぬこの子やといふ文の書らし  
粉ぬるりかかれのり  
あえ物れといふていふ  
くくくのおく橋子目くら

印 小 卷 考 集 芦 由 本 是 草 南 印

鶴のよこられつこのり  
はせよとていふ一  
行よる物やといふ  
白き橋といふ  
りよの対る月といふ  
いよとていふ  
一歩といふ  
いよとていふ  
宝所の暖心扉といふ  
後さといふ

小 卷 考 集 芦 由 本 是 草 南 印

歎けり 所より 心には なるに  
ゆれつき いふ 草と なる  
廣く 肉を して 人の ちり たる  
つれなき 心 意を なる 心 意  
を ちり 娘と せし ちり たり  
を ぬき せし 心 意 なる 心 意  
七世 八代 やまき しの なる  
人の 夫 先と なる 心 意  
の ぬき 後 中 路 なる 心 意  
そ ちり たり せし 心 意 なる 心 意  
双方 の 心 意 一 粒 と なる 心 意  
持 け たり なる 心 意 なる 心 意

草 小 印 甫 草 浚 本 由 芦 朱 考 苞

心 限 者 も 只 備 也 なる 心 意  
や なる 心 意 なる 心 意 なる 心 意  
可 念 も 始 の 心 意 なる 心 意  
その 心 意 なる 心 意 なる 心 意  
上 の 心 意 なる 心 意 なる 心 意  
け なる 心 意 なる 心 意 なる 心 意  
なる 心 意 なる 心 意 なる 心 意  
入 れ なる 心 意 なる 心 意 なる 心 意  
心 意 なる 心 意 なる 心 意 なる 心 意  
なる 心 意 なる 心 意 なる 心 意

考 小 印 甫 草 浚 本 由 芦 朱 考 苞

中伏しすすもめと尾らる  
洞後のみりんしき香き  
やき録のたつ世やうりし  
ちるれ作らうとまあき  
一休のたよ瓢めあうあれ  
せらうう唇のくきあうん  
それたすれハ香気はあひけ  
ふあもさあもつち中の秋  
あえもせの秋と人きり  
まはしきさきさきさき  
まのちたき流のやゆき揚し有  
儀のたきも非はしきぬ  
牛 菊 小 印 南 草 本 中

中着るい鳥をばあまのたき  
秋測とほくはあまのたき  
つとんとあきさきさきさき  
牛ハあまのたきさきさき  
あかたのたきさきさきさき  
あまのたきさきさきさき  
大黒のたきさきさきさき  
後すれとさきさきさき  
月さきいとさきさきさき  
あまのたきさきさきさき  
たぬハ兼てさきさきさき  
う板とたきさきさきさき  
牛 菊 小 印 南 草 本 中

下れいとよ豊せ原れ活活活  
 子多しむハ一むあり  
 精とて出せばはほせハつくと  
 船起しつては坊とんよ  
 切合のまいと事とときくや  
 此のくりせは船ハ去格  
 流い子天満ふみの功なり  
 此後への通流くすま

由 本 覚 草 南 印 方 筆



